

阪神・淡路大震災から、28年が経ちました。
震災により亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表します。

28年の歳月が流れ、震災を経験していない市民が増えていく中、震災から得られた経験や教訓を風化させることなく、次の世代に継承していくことが求められています。神戸市は市民のみなさま方の参画を得て、この課題に引き続き取り組んでまいります。

昨年も、大型台風や集中豪雨による土砂崩れ、河川の氾濫、震度5以上の地震、大雪などの自然災害により、日本各地で大きな被害に見舞われました。海外でも同様に自然災害による被害が相次いでいます。また、新型コロナウイルス感染症との闘いは3年になりますが、いまだに感染拡大の波が繰り返され、予断を許さない状況が続いています。

あの震災の時、私たちは国内外から多くのご支援をいただき、市民の力で復興を果たすことができました。その感謝の気持ちを忘れることなく、防災・減災、健康・安全などの分野で、他の都市や地域に貢献する都市であり続けます。そして、震災の経験を将来にわたって継承し、災害への備えを進めてまいります。

最後になりましたが、震災で亡くなられた方々に、重ねて哀悼の意を表しまして、追悼のことばといたします。

令和5年（2023年）1月17日
神戸市長 久元 喜造